

川のインストラクター養成講座 in 静岡 現地研修 (H19第4回)

(事務局：しずおか流域ネットワーク：http://www.ryuikinet.gr.jp/shizuoka/main.htm)



静岡での“川のインストラクター養成講座”は、21単位の講座を年間4回に分けて行っています。今回は、平成19年度第4回の現地研修について紹介します。

第4回は、静岡県中部の藤枝市内を流れる瀬戸川の中流、上流において、南條さんを講師に迎え過去の洪水の歴史を振り返りながら「川と人・社会・文化の関わり」について実習し、また、秋山さんを講師に“水循環の1つの経路・土砂循環の1つの経路”としての川の働きについて、石の標本作りを通して実習し、「体験活動の基礎技術」を身につけました。

日時：平成19年11月11日（日）午前8時～午後5時

場所：瀬戸川中流・上流域（藤枝市寺島から蔵田）、

受講者：16名（+講師・スタッフ 9名、計25名）

行程：静岡駅～藤枝総合庁舎～瀬戸川（赤坂橋）～助宗橋（石仏群）～蔵田峠～徳川忠長の墓～中里石仏群～上滝沢石仏群～滝沢紅茶工場～藤枝総合庁舎～静岡駅

講座内容：（ ）内は単位数

- ・瀬戸川に学ぶ「川と人・社会・文化の関わり」・・・(2)
(藤枝市郷土博物館から南條忠義さんを講師に迎え、瀬戸川沿いの石仏群を辿りながら、瀬戸川流域の歴史・文化を学びました。洪水による疫病のまん延を防ぐため活躍した小長谷「八兵衛」を祀った流域86基の八兵衛信仰や、幼く亡くなった子供達を祀る子安観音、農耕馬が人並みに扱われていた馬頭観音などを観て回りました。)
- ・土砂循環のメカニズムと石の標本作り (2)
(秋山講師を迎え、瀬戸川赤坂橋付近の川原にて石の標本作りを行いました。火成岩、堆積岩の成立ちや、日本列島の地質構造を基に構造線、付加体について学習し、何億年という長いスパンでの土砂循環について学び、この地方特有の蛇紋岩の石を捜しながら標本作りを行いました。)
- ・過去の洪水被害と治水の歴史をパネルにより説明を受けました。(0.5)
- ・やっと秋らしくなった山を望みながら、何故紅葉するのかを色素（クロロフィル、カロテン、アンシアニン）を基に光の3原色、色（素）の3原色を確認しながら学びました。(0.5)
- ・静岡県は緑茶の栽培で有名ですが、日本で作られる40トンの紅茶のうち3トンを生産している農家を訪ねました。製法の違いで緑茶に紅茶にも成る事を学びました。(1)



(川原で石の成立ちを聞いて標本作り)



(助宗橋下流の八兵衛石碑や子安観音を見学)



(蔵田峠にて過去の洪水被害と治水について)



(徳川忠長の墓を前に歴史の裏話)